

山陽道の起終点



元の山陽道は、観音崎町・永福寺下に一里塚がありました。江戸時代、下関から萩に行く赤間関街道が3つありました。

1つは、東側、→吉田→秋吉→萩と進む中道筋、
1つは、小月→西市→俵山→萩と中央を進む北道筋、
もう1つが、唐戸→貴船→垢田→川棚→萩と西側を進む「北浦街道」です。

のちに唐戸に九州への渡海の閾所（堂崎の渡し）があったことから、龜山八幡宮の下に「山陽道」碑ができました。